

# 第3回獣医師生涯研修事業運営委員会議事概要

## ( 学術部会個別委員会 )

日 時 平成19年2月9日(金) 10:00 ~ 12:30

場 所 日本獣医師会・会議室

出席者

【委員長】 中山 正成 奈良県獣医師会副会長(中山獣医科病院院長)

【副委員長】 加茂前秀夫 東京都獣医師会(東京農工大学教授)

【委員】 務中 昌己 広島県獣医師会(広島大学名誉教授)

山本 茂貴 東京都獣医師会(国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長)

<欠席委員>

桑島 法昭 千葉県獣医師会理事(八千代動物病院院長)

佐藤 繁 宮城県獣医師会(宮城県農業共済組合連合会県南家畜診療センター所長)

廣嶋 実 東京都獣医師会(広島動物病院院長)

藤田 桂一 埼玉県獣医師会(フジタ動物病院院長)

【部会長】 酒井 健夫(担当理事)

【本会】 中川 秀樹(副会長)、大森 伸男(専務理事)

議 事

1 第2回獣医師生涯研修事業運営委員会の検討結果(説明)

2 協議・検討事項

(1) 獣医師生涯研修事業「認定証」の様式について

(2) 獣医師生涯研修事業の研修カリキュラムについて

(3) 平成19年度獣医師生涯研修事業の手引きについて

会議概要

会議の冒頭、中山委員長から挨拶が行われた後、委員長により議事が進められた。

1 第2回獣医師生涯研修事業運営委員会の検討結果(説明)

事務局から、第2回委員会では、本事業の対応の方向(新たな出口論)については早急な結論を急がず再度内容の整理・検討を行う、認定証の様式・体裁についてはより魅力あるものにする、研修プログラム及びカリキュラム内容については全面的な見直しを行う旨、とりまとめが行われたことが報告され、会議概要については異議なく了承された。

## 2 協議・検討事項

### (1) 獣医師生涯研修事業「認定証」の様式について

事務局から「認定証」の新しい様式について提案が行われ、この内容について以下の意見交換が行われた。

ア これまでの「認定証」よりも重厚感があり、申請者にも喜んでもらえるのではないかと。

イ 認定したことを証する特別な胸章等を作成して、認定された獣医師が認定証と胸章のどちらかを選択して取得できるようにしてはどうか。さらに、認定証と胸章の両方取得したい場合には有料にて頒布してはどうか。

### (2) 獣医師生涯研修事業の研修カリキュラムについて

獣医師生涯研修事業の研修カリキュラムの内容について、委員から出された意見等をもとに検討が行われた結果、以下のとおりとされた(下線部分は追加・修正箇所)。

#### 【小動物獣医師向けカリキュラム】

##### 1. 基本事項

(1) 獣医師に必要な関連法規(獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法、狂犬病予防法、食品衛生法、薬事法、動物の愛護及び管理に関する法律、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等)

(2) 放射線防護並びに関連法規〔放射線防護に関連する施行規則、放射線障害防止法、労働衛生安全法(電離放射線障害防止規則)〕

(3) 獣医療倫理(インフォームド・コンセント等)

(4) 動物福祉

(5) ヒトと動物の関係(動物行動学、動物介在療法、学校飼育動物、野生動物への対応等を含む)

(6) 食品衛生・保健衛生(食品衛生・保健衛生等に関する指導、関連する薬事等)

##### 2. 臨床的事項(各診療科における基本的な事項も含めて修得する)

(1) 診療技術(診察法、基本的臨床検査法、X線検査法、理学的検査法、内視鏡検査法、超音波検査法、採血法、生検法、注射法、穿刺法、採尿法等)

(2) 外科的処置(外科手術に対する心構え、滅菌・消毒法、局所麻酔と全身麻酔法、基本的な外科手術、術前・術中・術後の管理等)

(3) 救急対処法

(4) 治療法〔基本的治療法(ワクチネーション、輸血、輸液、薬物療法、化学療法等)、先端的治療法(臓器移植、人工臓器、遺伝子治療等)〕

(5) 看護法(分娩介助、新生子、老齢等)

(6) 予防法(一般感染症、共通感染症)

##### 3. 各種疾患における事項(基本的事項と最近の話題)

(1) 感染症

(2) 中毒

(3) 腫瘍

(4) 新生子疾患

- ( 5 ) 老齡性疾患
- ( 6 ) 呼吸器・循環器疾患
- ( 7 ) 消化器疾患・口腔疾患 ( 歯科を含む )
- ( 8 ) 泌尿器・生殖器疾患〔不妊等産科 ( 臨床繁殖 ) を含む〕
- ( 9 ) 運動器疾患
- ( 10 ) 神経・感覚器疾患 ( 行動異常を含む )
- ( 11 ) 血液・造血器疾患
- ( 12 ) 内分泌・代謝性疾患
- ( 13 ) 皮膚疾患

#### 4 . 関連事項 ( 小動物獣医師に修得して欲しい産業動物・公衆衛生分野の事項 )

- ( 1 ) 産業動物の衛生管理
  - ( 2 ) 産業動物疾病の予防 ( 疫学、予防接種等 )
  - ( 3 ) 産業動物の感染症 ( 共通感染症、監視伝染病等 )
  - ( 4 ) 産業動物の遺伝性疾患
  - ( 5 ) 生産獣医療システム ( プロダクションメディスン、代謝プロファイルテスト等 )
  - ( 6 ) 食品衛生 ( HACCPシステム等 )
  - ( 7 ) 共通感染症の分類、伝播様式 ( 病原体と伝播様式 )
  - ( 8 ) 環境保健
  - ( 9 ) 獣医学分野、公衆衛生分野における疫学
  - ( 10 ) 公衆衛生分野からみた動物用医薬品と薬剤耐性
- 〔注：共通感染症とは、人と動物の共通感染症をさす。〕

#### 【産業動物獣医師向けカリキュラム】

##### 1 . 基本事項

- ( 1 ) 獣医師に必要な関連法規 ( 獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法、狂犬病予防法、食品衛生法、薬事法、動物の愛護及び管理に関する法律、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等 )
- ( 2 ) 放射線防護並びに関連法規〔放射線防護に関連する施行規則、放射線障害防止法、労働衛生安全法 ( 電離放射線障害防止規則 ) 〕
- ( 3 ) 獣医療倫理 ( インフォームド・コンセント等 )
- ( 4 ) 動物福祉
- ( 5 ) 食品衛生・保健衛生 ( 食品衛生・保健衛生等に関する指導、関連する薬事等 )
- ( 6 ) 畜産経済 ( 経済疫学等 )

##### 2 . 臨床的事項

- ( 1 ) 重点事項 ( 1 ) 繁殖の管理と障害 2 ) 乳房炎 3 ) 蹄病・運動器病 4 ) 子牛と子豚の下痢・肺炎 5 ) 遺伝性疾患 6 ) 免疫介在性疾患 7 ) 感染症と寄生虫病 8 ) 衛生管理 9 ) 監視伝染病・海外悪性伝染病の疫学と対処 10 ) 生産獣医療システム )

- (2) 診療技術 ( 1 ) 診察法 2 ) 臨床検査法 3 ) 画像検査法 4 ) 理学・光学的検査法 5 ) 治療処置法 )
- 3 . 衛生的事項
  - ( 1 ) 疾病予防 ( 1 ) 疫学 2 ) 防疫 3 ) 消毒 4 ) 予防接種 5 ) 衛生動物の駆除 6 ) 感染症・寄生虫病の実態と対策 )
  - ( 2 ) 環境衛生 ( 1 ) 一般環境要因 2 ) 畜産廃棄物とその管理 3 ) 家畜と騒音 )
  - ( 3 ) 管理衛生 ( 1 ) 畜舎衛生 2 ) 放牧衛生 3 ) 輸送衛生 )
  - ( 4 ) 飼育衛生 ( 1 ) 飼養 2 ) 飼料 3 ) 栄養障害 4 ) 代謝障害 5 ) 中毒 )
- 4 . 関連項目 ( 産業動物獣医師に修得して欲しい小動物・公衆衛生分野の事項 )
  - ( 1 ) 小動物獣医療倫理 (インフォームド・コンセント等)
  - ( 2 ) 小動物診療技術
  - ( 3 ) 小動物診療における外科的処置
  - ( 4 ) 小動物診療における救急対処法
  - ( 5 ) 小動物の疾病
  - ( 6 ) 食品衛生 ( HACCP システム等 )
  - ( 7 ) 共通感染症の分類、伝播様式 ( 病原体と伝播様式 )
  - ( 8 ) 環境保健
  - ( 9 ) 獣医学分野、公衆衛生分野における疫学
  - ( 10 ) 公衆衛生分野からみた動物用医薬品と薬剤耐性

[ 注 : 共通感染症とは、人と動物の共通感染症をさす . ]

## 【公衆衛生獣医師向けカリキュラム】

- 1 . 一般事項
  - ( 1 ) 獣医師に必要な関連法規 ( 獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法、狂犬病予防法、食品衛生法、薬事法、動物の愛護及び管理に関する法律、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、と畜場法、食鳥検査法等 )
  - ( 2 ) 公衆衛生活動 ( 公衆衛生学と衛生行動、健康づくり対策、地域保健対策 )
  - ( 3 ) 公衆衛生分野の疫学
  - ( 4 ) 食品衛生における危害と対応 ( 1 ) 世界、我が国での食中毒、食品媒介感染症の状況 2 ) HACCP システム 3 ) リスクアナリシス ( リスク分析、リスク管理、リスク評価 4 ) 動物用医薬品と薬剤耐性 )
  - ( 5 ) 共通感染症の現状と対応 ( 1 ) 感染症新法と共通感染症 2 ) 世界、我が国での新興・再興感染症の状況 3 ) 感染症の発生と対応 )
  - ( 6 ) 環境保健 ( 1 ) 汚染物質とヒト・動物への影響 2 ) 畜産廃棄物と土壌水質汚染 )
- 2 . 基本事項
  - ( 1 ) 食品衛生 ( 1 ) 食品由来危害物質 生物学的危害物質 ( ウイルス、細菌、原虫、寄生虫 ) 化学的有害物質 [ 自然毒 ( 動物性、植物性 ) カビ毒、抗菌、農薬、その他 ] 食品に起因する新興・再興感染症 ) 2 ) 危害の制御法

滅菌・殺菌 保存・保蔵 3) 食品の衛生管理システム HACCP システム リスクアナリシス 生産から消費の流れ(加工技術、保蔵技術、流通システム) 4) 各種危険物質の検査法 食中毒の疫学調査、微生物自然毒(動物性、植物性) 化学物質 農薬、抗生物質 残留農薬等ポジティブリスト制 アレルギー物質を含む食品とその表示 5) 食肉・食鳥肉の衛生 6) 乳・乳製品の衛生 7) 食用卵の衛生 8) 水産食品の衛生 9) その他の食品の衛生(輸入食品、特殊栄養食品、遺伝子組み替え食品等))

(2) 共通感染症( 1) 共通感染症の発生要因 2) 共通感染症の分類、伝播様式 3) ウイルス性感染症 4) リケッチア、クラミジア感染症 5) 細菌性感染症 6) 真菌性感染症 7) 原虫性感染症 8) 寄生虫性感染症 9) その他の感染症(プリオン病等))

(3) 環境保健( 1) 環境保健の概念と環境アセスメント 2) 汚染物質と環境での動態 3) 地球環境問題と健康への影響 4) 大気(空気)の衛生(健康への影響) 5) 水の衛生(水の衛生管理) 6) 下水の管理 7) 廃棄物と環境 8) 公害の定義・分類とその対策 9) 衛生動物と環境管理)

(4) ヒトと動物の関係( 1) 伴侶動物の衛生管理 2) 学校飼育動物、展示動物の衛生管理 3) 動物(伴侶動物)の行動学 4) 動物介在療法 5) 動物福祉)

3. 関連項目(公衆衛生獣医師に修得して欲しい小動物・産業動物分野の事項)

(1) 小動物獣医療倫理(インフォームド・コンセント等)

(2) 小動物診療技術

(3) 小動物診療における外科的処置

(4) 小動物診療における救急対処法

(5) 小動物の疾病

(6) 産業動物の衛生管理

(7) 産業動物疾病の予防(疫学、予防接種等)

(8) 産業動物の感染症(共通感染症、監視伝染病等)

(9) 産業動物の遺伝性疾患

(10) 生産獣医療システム(プロダクションメディスン、代謝プロファイルテスト等)

[注:共通感染症とは、人と動物の共通感染症をさす。]

(3) 平成19年度獣医師生涯研修事業の手引きについて

平成19年度獣医師生涯研修事業の手引きの修正については、修正箇所が少ないことから、事務局に一任することとされた。

(4) その他

ア 日本獣医師会雑誌第60巻第1号に掲載された獣医師生涯研修事業のページの内容に対して構成獣医師から意見が送付されたことの報告が行われ、以下の意見交換が行われた。

(ア) 掲載内容に対する意見が寄せられることは、獣医師生涯研修事業のページが注

目されていることの証であり、良い傾向ではないか。

(イ) 本件については、執筆担当委員の見解を聴取したうえで対応することとしてはどうか。

イ その他、ポイントシールを自己管理することや研修実績を申請することが煩わしいという意見が多いため、例えば、日本獣医師会の会員証を読取機に通過させることにより研修実績が加算されるシステム等、新たな方法を検討することが必要ではないかとの意見が出された。

(5) 会議の最後に、中川副会長から以下のとおり挨拶が行われた。

本事業の実績申告者が年々減少していることは事実であるが、本事業の主旨である自己研鑽の重要性を考慮していただき、獣医師生涯研修事業が継続して実施されるよう引き続きご尽力をお願いしたい。

#### まとめ

第3回委員会は中山委員長により以下のとおりとりまとめられた。

- (1) 「認定証」の新しい様式については提案内容のとおりとする。
- (2) 研修カリキュラムについては、産業動物は加茂前副委員長、小動物は中山委員長、公衆衛生は山本委員が内容確認のうえ、各委員に送付して最終確認を行う。
- (3) 平成19年度獣医師生涯研修事業の手引きの修正については、事務局に一任する。
- (4) 本事業の実績申告者が増加するための新たな方法について今後検討する。